

令和7年度 技術 第2学年「B 生物育成の技術」 船橋希望学舎 世田谷区立船橋希望中学校

月	指導目標	評価基準	単元	学習内容	観点	十分達成A	おおむね達成B	評価方法
4月	○よりよい社会を築いていくために生物育成に関する技術を適切に評価し、活用させる。	生活を主体的に取り組む態度 ・生物育成に関する技術の課題を進んで見つけ、社会的、環境的及び経済的側面などから比較、検討しようとするとともに適切な解決策を示そうとしている。	B:生物育成の技術	①私たちの生活と生物育成 ・生物育成とは ・作物の特性と技術	態度	・生物育成に関する技術が生活に果たす役割について関心を示している。	・生物育成に関する技術が果たす役割について知ることができる。	授業観察
5月				②生物育成 ・生物育成のサイクル ・生物育成計画について	知識	・生物育成のサイクルや育成計画の立て方を知り栽培に見通しを持つことができる。	・生物育成のサイクルを知り、栽培に見通しを立てることができる。	ワークシート
6月				③作物の育成 ・栽培ごよみについて ・栽培環境について ・土壌の性質と施肥 ・育苗と植え付けについて ・定植後の管理	態度 思考 判断 技能	・環境に対する負荷の軽減や安全な栽培方法を検討し、新しい発想を生み出し活用している。 ・条件に応じて作業の手順や肥料を適切に選択し、栽培計画を立てている。	・安全に配慮して栽培活動に取り組むことができる。 ・手順を守り施肥を行い、計画を立てることができる。	レポート 栽培記録
7月	○目的や条件に応じて栽培計画を立てるとともに育成する作物の観察を通して成長の変化を捉え、適切に対応を工夫させる。 ○生物の適切な管理を行い、知識を身につけさせる。	生活の思考・判断・表現 ・目的や条件に応じて栽培計画を立てるとともに育成する作物の観察を通して成長の過程を観察し、栽培管理を適切に工夫している。 生活や技術の知識・技能 ・作物に応じた適切な管理作業ができる。 ・生物を取り巻く環境や生物環境が生物に及ぼす影響や作物の育成に関する条件及び育成環境を管理する方法についての知識を身につけている。 ・生物育成に関する技術と社会や環境との関わりについて理解している。		・生物育成に関するレポート ・生物育成と社会 ・最新の栽培システム	技能 思考 表現	・日本の農業、酪農、水産業、林業などに関する生物育成レポートを作成し、生物生産する社会とのつながりを学び、まとめる。 ・作物の生長の変化に応じて管理作業や肥料を適切に選択できる。 ・資材や用具を安全に使用し、適切な栽培管理ができる。	・生物生産について社会とのつながりについて調べ、知ることができる。 ・栽培の生長の過程を観察し、記録できる。 ・指示された作業を適切に行うことができる。	定期テスト
				④作物の栽培実習 ・野菜づくり (夏野菜など) ・土づくり ・摘芽、摘芯、施肥、かん水	技能 知識 判断	・生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解している。	・生物育成が社会や環境に果たす役割について知ることができる。	
				⑤生物育成に関する技術の評価・活用 ・生物育成についてのまとめ	技能 態度 思考 判断 表現	・生物育成に関する技術の課題を進んで見つけ適切な解決策を見いだそうとしている。	・調べたことをまとめ、課題を知ることができる。	

令和7年度 技術 第2学年 「D 情報の技術」 船橋希望学舎 世田谷区立船橋希望中学校

月	指導目標	評価基準	単元	学習内容	観点	十分達成A	おおむね達成B	評価方法
4月	○よりよい社会を築いていくための情報に関する技術を適切に評価し、活用させる。	生活を主体的に取り組む態度 ・情報社会において適正に活動できる。 ・新しい発想を生み出し活用しようとしている。	D:情報の技術	①情報通信ネットワークと情報セキュリティ ・ネットワークの危険性 ・情報セキュリティについて	知識態度 技能 思考	・IoTやAIといったインターネット通信による技術の進展について考え、情報技術と社会との関わりについて理解することができる。	・IoT技術の基本的なしくみについて知ることができます。	授業観察 ワークシート レポート プログラム作品 定期テスト
5月		生活の思考・判断・表現 ・情報に関する技術の課題を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから比較検討するとともに、適切な解決策を見いだすことができる。		②情報モラルと知的財産 ・利用するときのモラル ・人権や個人情報の保護 ・知的財産の保護	知識態度 技能 表現	・著作権の利用や情報発信に伴って発生する可能性のある問題と発信者としての責任についての知識を身につけている。 ・情報に関する技術の利用場面に応じて適正な行動を考えている	・著作権の利用や発信者としての問題について気づき知ることができる。 ・手順や操作方法を守って情報を利用できる。	
6月	○情報に関する技術に関わる倫理観を身につけ、知的財産を創造、活用させる。	生活や技術の知識・技能 ・設計に基づき簡単なプログラムを作成することができる。		③生活の中にあるプログラム ・双向性プログラミングのしくみ ・身近な生活で情報に関する技術やコンピュータの役割を知る。 ・コンピュータの構成要素とそれぞれの役割を知る。 ・インターネットなどのネットワークの仕組みを知る。 ・情報処理の手順	知識 技能 思考 表現	・コンピュータを構成する主要な装置と基本的な情報処理のしくみや、コンピュータで情報を利用するために必要なデジタル化の方法についての知識を身につけている。 ・設計に基づき、簡単なプログラムを作成できる。 ・双向性のあるコンテンツのプログラミングにより解決できる問題を見付けようとしている。	・コンピュータの構成するしくみを知り、デジタル化の方法について知識を身につけることができる。 ・適切に操作できる ・指示された簡単なプログラムを作成できる。 ・双向性のあるコンテンツのプログラミングを理解しようとしている。	
7月								
9月								
10月								
11月	○コンピュータにおける基本的な情報処理の仕組みと情報通信ネットワークにおける安全な情報利用の仕組みについての知識を身につけさせ、情報に関する技術と社会との関わりについて理解させる。							

令和7年度 技術第2学年「C エネルギー変換の技術」船橋希望学舎 世田谷区立船橋希望中学校

月	指導目標	評価基準	単元	学習内容	観点	十分達成A	おおむね達成B	評価方法
11月	○よりよい社会を築いていくためにエネルギー変換に関する技術を適切に評価し、活用させる。	生活を主体的に取り組む態度 ・エネルギー変換に関する技術の課題を考え、社会的、環境的及び経済的側面などから適切な解決策を示そうとしている。 ・省エネルギーや環境保全、使用者の安全に配慮して設計製作しようとしている。	C:エネルギー変換の技術	①私たちの生活とエネルギー変換 ・エネルギーの利用 ・エネルギーの資源 ・エネルギー変換効率	態度 知識	・エネルギー変換に関する技術が果たす役割と影響についての問題に目を向け、その解決方法を考えることができる。 ・社会で利用されているエネルギー変換に関する技術についての知識を身につけることができる。	・エネルギー変換に関する技術が果たす役割について気づくことができる。	授業観察
12月		生活の思考・判断・表現 ・エネルギー変換に関する技術を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから比較、検討するとともに適切な解決策を見いだしている。 ・製作品の使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから設計要素を比較、検討した上で、製作品にエネルギー変換方法や構造を理解し、加工に取り組ませている。		②電気エネルギーの利用 ・電気エネルギー ・熱・光・動力への変換	知識	・電気エネルギーを変換して利用するためのしくみや変換方法の知識を身につけている。	・電気エネルギーを変換して利用するためのしくみを知ることができる。	ワークシート レポート
1月	○機器の保守点検と事故防止に努め、行動させる。	生活の技能 ・機器の点検すべき箇所を見つけ、保守点検と事故防止に努めることができる。 ・設計に基づき、安全を踏まえた製作品の組立て、調整や電気回路の配線の点検ができる。		③動力の利用 ・動力伝達のしくみ ・ダイナモラジオ製作	知識 技能 思考 表現	・動力を効率よく伝達するしくみを知り、それぞれの特徴を理解することができる。	・動力を効率よく伝達するしくみを知ることができる。	定期テスト 作品
2月	○エネルギーの変換方法やしくみについての知識を身につけ、エネルギー変換に関する技術と社会や環境との関わりについて理解させる。	生活や技術の知識・理解 ・社会で利用されている機器等におけるエネルギー変換の利用についての知識を身につけることができる。 ・機器の構造や電気回路、各部の働きについての知識を身につけています。 ・製作品の組立てや調整に必要な工具や機器の適切な使用方法についての知識を身につけることができる。		④エネルギー変換の実際 ・電気回路 ・機械部品 ・機器の安全な利用 ・機器の保守点検	態度 知識	・機器の構造や電気回路、各部の働き、電気機器の保守点検や事故防止策など適切な使用方法についての知識を身につけている。	電気回路や電気機器の安全面など、適切な使用方法についての知識を身につけている。	
3月				⑤製作品の構想と設計製作 ・ダイナモラジオの回路製作	技能 思考 表現	・設計に基づき安全面を踏まえた製作品の組立て、調整ができ、電気回路の配線の点検ができる。	設計に基づき安全面を踏まえた製作品の組立て、調整ができる。	
				⑥エネルギー変換に関する技術の評価、活用 ・社会、環境との関わり ・作品の自己評価 ・製作品の改良、改善点の考案	態度 思考 表現	・製作品の使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的及び経済的側面などから設計要素を比較、検討した上で、適したエネルギー変換方法などを決めることができる。	・製作品の使用目的や条件を明確にし、適したエネルギーを決めることができる。	

